

J S R 編集委員会 議事録

日 時：平成 26 年 4 月 17 日 7:00-8:15

会 場：京都国際会館 5 階 554-A

出席者：平林 茂（理事）、川口 善治（委員長）、青田 洋一、赤澤 努、笠井 裕一、寒竹 司、
高橋 寛、二階堂 琢也、長谷 斉、長谷川 和宏、
（以上委員、10 名）
三輪様（C B R）、尾島様（J S R 編集分室）、鈴木めぐみ（事務局）

報告事項

1．関連学会の次期編集委員長の内定結（資料 1）

川口委員長が、改選後の J S R 編集委員候補として、一覧表を提示した。各学会の代表者以外で挙げた 5 名の先生方については、所属地域や現在編集レフリーとして協力してもらっている人を選んだとの説明があった。一同メンバーリストについて検討し、了解した。

2．平成 27 年 1 月からのオンライン化実施に向けての確認事項

平林理事が、J S R オンライン化に際し詳細を説明した。平林理事が、オンライン化するうえで、各学会で ID とパスワードを作ってほしいと依頼し、一同了解した。

また、平林理事が J S S R では、J S R 電子化に向けて「紙媒体学会誌の要不要調査」を行う予定であると説明した。

3．日本医学会で決定した COI の方針の報告（平林）

平林理事が、昨日の評議員会にも提出した資料で、日本医学会で定められた COI の方針について説明した。

4．二重投稿に対する方針の確認

川口委員長が、理事会でも確認済みの二重投稿に対する方針について、J S R 1 月号に掲載したと報告し、また今回の方針には罰則規定を設けていると説明した。

ただし、英文で作成された論文を日本語に修正して投稿することに関しては禁止しておらず、英文論文を広めるためにも、採用は委員長決済としていると続けた。

figure がまったく同じものは、どのような論文でも問題との意見があり、「figure 等は（短論文に掲載したものとは必ず）変えてください」等の記載を依頼時等の文言の追加することになった。

5．今年度の企業からの広告代申し込みの最終報告（資料2）

川口委員長が、今年度の広告申し込み一覧を提示し、広告収集への委員の協力にお礼を述べるとともに、年々広告費は減少してきていることを報告した。

学会誌を電子化した場合、広告収集にどのような影響が生じるか検討した。

6．英文の症例報告の投稿の勧め

川口委員長が、英文の症例報告の投稿を会員各位に勧めるために、学会誌に案内文を同封したと報告し、引き続き査読でも英文のレポートは掲載しやすいようにしていきたいと発言した。

審議事項

7．分担金に対する関連学会の考え

川口委員長が、年間の分担金150万円に関して、各学会の代表に意見を求めた。今のところ問題ないとの意見が多かった。

8．西日本の1号分を他に変更する可能性について

西日本脊椎研究会より、年間2冊担当号があるが、1号分でよいとの依頼があり、検討した。西日本脊椎研究会の6月に世話人会の結果を受けて、再検討することになった。

9．今期のJSRの発行の見通し（資料3）

川口委員長が、今期のJSRの発刊の見通しについて資料3に基づいて説明した。

10．関連学会における編集方法の統一の確認

川口委員長が、各学会の号で超過金が発生することがあるが、超過金は各学会の負担となってしまうため、なるべく規定のページ数に収まるよう、採用率などを統一してほしいと発言した。

11．次期委員会への要望事項

川口委員長が、次期委員会で実行すべき活動内容について意見を求めたところ、統一した査読システムの構築について提案があった。本件は、今後も検討していくことになった。

12．今後のJSRの方向性（英文誌への移行など）

川口委員長が、現状JSRへの投稿が減ってきていることなどを説明した。今後の抜本的改革などについてざっくばらんに意見を交換し合った。

その結果、PubMedに載ることを第一目標として、調査等を進めることになった。

以上